

「クリニカル シミュレーション」

—診療能力向上のための新しい学習法—

C. H. McGuire, L. M. Solomon, P. M. Forman 編集

植村 研一 浜松医科大学教授 監訳

国立長崎中央病院医長
臨床研修総括責任者

岩 崎 栄

シミュレーションそして“simulated patient”「模擬患者」。このことはわれわれにとって余りに挑戦的であり刺激的であり、実に衝撃的でさえあった。それはライフプランニングセンター(理事長: 日野原重明氏)主催の国際セミナーで招請されたDr. Barrows (カナダのマックマスター大学内科教授)により教えられ学習したときのことである。

驚くばかりの本物そのものの「模擬患者」、これ程、臨場感にあふれる患者との出会い、それからのマネージメントに臨床医学教育への応用とよりよき診療能力の向上、患者対応への態度などを学ぶ格好の教材資源はないと感じられた。その時に聞いた PMP (patient management problem) や written simulation, SMP (sequential management problem) など、すべて問題指向型学習法 (problem based learning) であり、自己体験学習をめざす新しい医学教育改革の方法でもあった。

それらの一貫として、この度、発刊された「クリニカルシミュレーション」は医学教育で悩む医学部や卒業後教育を担当する教官や指導医にとってもっとも困難とされる臨床教育

の評価のある一部でも解決する材料を与えてくれたものであると考えられる。

日本の医学教育も、一部医科大学にみられる入試方法の改善や医師国家試験の内容検討など多大の関心が示され、ようやく教育評価に対する重要性が認識されてきた。

この書は、イリノイ大学医学部だけでなくアメリカの医学教育の試験制度に対する批判の書でもある。

「徹底した議論、時には激しい討論を経て……徹底的に討論して大学全体としての教育目標と学生の成果を判定する基準を定めるためにほとんどの時間を費やしたのである。臨床判断力の発達……これをより信頼性のある確実な方法で評価しようとの努力から生まれたのが PMP である」。これは、本書の推薦の序で書かれている一節である。ここにも説明されているように本書は患者のマネージメントをするために集められたデータを適切に取捨選択し、それも順位性をもって行う必要があり、かなり高度の能力が要求されている試験問題集である。

しかも単なる試験問題集でないことは、この書を実際に手にしてはじ

めておわかりいただけると思う。患者が持つ問題は患者をめぐる人たちからも集められたものであり、彼らの言葉で表現されている。呈示されている臨床検査にしても一般に用いられているものばかりであり、日本の一般病院であればどこでも通用する標準的なものであることもわかるし、問題解決へのアプローチにしても、非常に特殊なものではなく、極めて稀なる疾患へのひらめきを要求するが如き、いじわるなものはどこにもみあたらないのである。

だからといって決してレベルが低いのではなく、専門医が満足する程度に十分に保たれている。

おそらく本書で学習される読者の多くが、何回となく模擬患者を危機に陥し入れたり、死に至らしめたりされるであろう。また一方、このような試験方法が昔あったなら、もっともっとよりよき臨床医になれたであろうと悔やまれる方もいるであろう。

ともかくすべての臨床医が一度は試みるべきクリニカルシミュレーションであり、ことに医学生、臨床研修医にとって必須の自己学習書である。また医学教育者(基礎・臨床をとわず)の全部が、この教育評価の方法、あり方を理解し、新しい自己学習の教材として、学習への動機づけとして、本書を積極的にとりあげられることを切に希望するものである。

B 5 頁446 図7 写真39

原色図21 1979

¥5,000 ㊦200 <医学書院刊>